

2 章 学習のまとめ

この章で学習した内容をふり返ってみましょう。

2 元 1 次方程式とその解

▶ p.48

2 つの文字をふくむ 1 次方程式を
2 元 1 次方程式 といい、方程式を
 成り立たせる 2 つの文字の値の組を、
 その 2 元 1 次方程式の **解** という。

連立方程式とその解

▶ p.49

方程式を組にしたものを **連立方程式** という。
 また、2 つの方程式を両方とも成り立たせる
 文字の値の組を、その連立方程式の **解** と
 いい、解を求めることを、その連立方程式を
解く という。

加減法による解き方

▶ p.51

$$\begin{cases} 2x+5y=8 \cdots \cdots ① \\ 3x+4y=5 \cdots \cdots ② \end{cases}$$

$$\begin{array}{rcl} ① \times 3 & & 6x+15y=24 \\ ② \times 2 & -) & 6x+8y=10 \\ \hline & & 7y=14 \\ & & y=2 \end{array}$$

$y=2$ を①に代入して整理すると、 $x=-1$
 答 $x=-1$, $y=2$

代入法による解き方

▶ p.54

$$\begin{cases} y=2x \cdots \cdots ① \\ 3x-2y=-2 \cdots \cdots ② \end{cases}$$

①を②に代入すると、

$$3x-2 \times 2x = -2$$

$$x=2$$

$x=2$ を①に代入すると、 $y=4$

答 $x=2$, $y=4$

連立方程式の利用

▶ p.59

鉛筆 5 本と消しゴム 3 個の代金の合計は
 620 円、鉛筆 8 本と消しゴム 2 個の代金の
 合計は 740 円であるとき、鉛筆 1 本と
 消しゴム 1 個の値段をそれぞれ求めてみよう。

① 鉛筆 1 本の値段を x 円、
 消しゴム 1 個の値段を y 円とすると、

$$\begin{cases} 5x+3y=620 \\ 8x+2y=740 \end{cases}$$

③ 連立方程式を解くと、 $x=70$, $y=90$

④ 鉛筆 1 本の値段 70 円、消しゴム 1 個の
 値段 90 円は問題に適している。

答 鉛筆 1 本 70 円、消しゴム 1 個 90 円

2 章で見つけた **!** を
 ふり返って、学習感想を
 まとめてみましょう。

- わかったことや
よかったこと
- 大切だと感じたことや
気づいたこと
- さらに学習して
みたいこと など

文字を 1 つだけふくむ
 1 次方程式にすることで、
 連立方程式が解けるように
 なった。

連立方程式の解き方には、
 加減法と代入法があるけれど、
 式によって解きやすい方法を選
 ぶとよいことがわかった。

連立方程式を利用するとき、
 何を x , y と表すかによって、
 さまざまな方程式をつくること
 ができることがわかった。

